

SMBS-CHB1Z

佐久埋蔵文化財調査センター

年 報 1

1990





聖原遺跡全体写真





金井城跡全体写真 (1 : 2,500 株式会社協同測量社撮影)

創刊によせて

佐久埋蔵文化財調査センターも、昭和60年5月設立以来ここに5年目を向かえました。

このたび、年報を創刊するに当たり、過去5ヶ年間の特筆すべき調査概要を記述して各位にその成果を周知していきたいと思ひます。

まず、昭和60年度は、信州短期大学用地の「北西の久保遺跡」から弥生時代中期後半と後期前半の竪穴住居址が数多く検出され、当遺跡が弥生時代の拠点集落であったことが確認されたのであります。

次に、昭和61年度学術調査の「瀧の峯古墳群」は、この古墳群が県下において弥生時代終末から古墳時代前期における墓制の変遷を考える上で、貴重な発見となったのであります。

次に、昭和63年度は、県営小田井工場団地造成のための「金井城跡」緊急調査で、全国でもまれな8万㎡余の大規模な調査を実施し、今後報告書編纂の過程で、近接する同時代の城郭、小田井城、平原城、曾根城等との相互関連及び、全国の城郭型式学研究の中における位置づけを行う必要があらうと考えます。

平成元年度の調査は、佐久流通業務団地造成のための「聖原遺跡」の調査で、3万3千㎡にわたる調査の結果、古墳時代後期から平安時代にかけての住居址が約400棟検出され、当時大規模な集落が存在していたことが、予測されたのであります。尚、当遺跡の調査は、平成2年度以降計画されているので、全ての調査完了後、全容を解明していく所存であります。

以上、当佐久埋蔵文化財調査センターが、過去5ヶ年間にわたって調査した遺跡数は、総数で、49遺跡、調査面積約20万㎡の膨大な調査を完了し、また、成果の集大成である調査報告書も期限内に刊行して、佐久市教育委員会へ移管すると共に、各関係機関等へそれぞれ送付公表したのであります。

最後に、当佐久埋蔵文化財調査センターが行った発掘調査事業全般について、ご協力をいただいた関係各位に対し、深謝し、今後ともご支援とご協力をおねがひいたしまして、年報創刊の挨拶といたします。

平成2年3月

佐久埋蔵文化財調査センター
所長 西沢 正巳

年報発刊に当たって

昭和60年5月、佐久市教育委員会の要請を受けて社団法人佐久市開発公社内に、佐久埋蔵文化財調査センターが設立されてから早いもので5年になります。この間実に49遺跡にわたる緊急発掘調査を実施してきた成果を今年年報としてまとめるに当たり感慨無量なるものがあります。

願ひますと関越道上越線関連公共事業、短大用地、一般開発事業等の本格化にともない埋蔵文化財の発掘調査に対応するために佐久埋蔵文化財調査センターが誕生したのであります。

当時は行政改革絡みで埋蔵文化財発掘調査のスタッフ不足が果段階を始め、行政の大きな問題になっていた折りに、教育委員会の保護施策分野に開発公社が応援に乗り出すのは全国でも初めてのケースであり、発掘に追われる他市町村の関心を集めてスタートしたのがつい昨日のようにおもわれます。

爾来、埋文センターは教育委員会の委託を受けて、専門職員の補充を図りながら各事業の推進に支障なく意欲的にその任を全うしてきたのであります。また調査の集大成ともいべき調査報告書の刊行も、委託事業の全てを発刊されたことにつきまして関係者並びに担当職員のご努力に對しまして心より敬意を表する次第であります。

ここに5年という一つの節目に年報が発刊されるに当たり、ますます埋文センターのご発展を御祈念申し上げると共に、埋蔵文化財保護事業に對しまして市民の皆様のご理解をいただければ幸いに存じます。

平成2年3月

佐久埋蔵文化財調査センター

初代所長 木内 捷

目 次

口 絵	聖原遺跡Ⅰ全体写真、金井城跡全体写真
目 次	
創刊によせて	
年報発刊にあたって	
I センターの概要	
1 設立趣旨	1
2 構成役職員	2
(1) 組織	2
(2) 役員・職員名	3
3 会計経理の状況	4
II 事業概要	
1 発掘調査	5
2 整理調査	6
3 試掘調査	7
4 その他	8
(1) 保護・保存事業	8
(2) 普及活動	8
(3) 鑑定・指導関係	9
(4) 職員研修	10
5 佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書刊行目録	11
III 平成元年度各遺跡の調査概要	
聖原遺跡Ⅰ	16
聖原遺跡Ⅱ	21
金井城跡	23
西曾根遺跡	27
菅田遺跡Ⅳ	29

I センターの概要

1 設立趣旨

佐久市に存在する遺跡数は、約500遺跡である。これらの佐久市の文化の特質を物語る遺跡の存在は、市民にとって大きな誇りであり、これらの文化財を共有の財産として保護し、後世に伝えていくことは、市民の責務である。

しかし、市民生活の安定と向上を図るための施策として各種の公共事業や、高速交通網の整備、工場団地造成等が、昭和の後半から急増した。その結果、開発と文化財の保護が大きな社会問題となり、それへの対応が急務となった。

こうした背景のもとで、文化財保護法の理念にのっとり、開発と文化財保護の調和を図るための施策の一環として、佐久市教育委員会の強い要請と指導により、佐久市開発公社は、市の補完事業を行うに併せ、佐久市開発公社の定款変更（公社定款第4条）を行い、昭和60年5月1日、佐久埋蔵文化財調査センターが設立された。



佐久埋蔵文化財調査センター開設記念式典



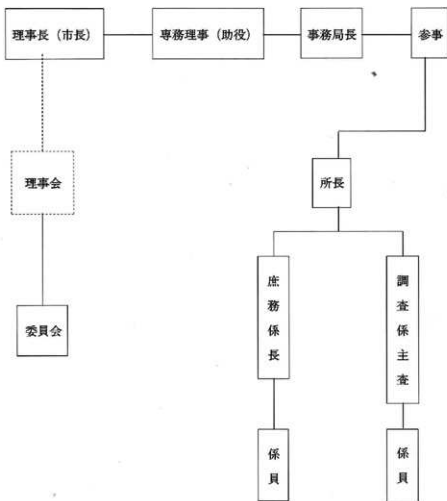
昭和60年の埋文センター庁舎



昭和61年～平成2年3月までの埋文センター庁舎

2 構成役職員

(1) 組織



(2) 役員・職員名

項目	S60	S61	S62	S63	H1
理事 長	神津武士	神津武士	神津武士	神津武士	三浦大助
専務理事	前島宗之	前島宗之	前島宗之	前島宗之	角田邦男
事務局長	花里禪	花里禪	武田一郎	中沢晴人	中沢晴人
参事	柳沢今朝男	佐々木正泰	佐々木正泰	佐々木正泰	佐々木正泰
所長	木内捷	西沢正巳	西沢正巳	西沢正巳	西沢正巳
庶務係	島山俊彦 (主任) 高橋純子 (臨職)	島山俊彦 (主任) 高橋純子 (臨職)	島山俊彦 (主査) 田中芳美 (臨職)	島山俊彦 (係長) 田中芳美 (臨職) 菊池直美 (臨職)	島山俊彦 (係長) 菊池直美 (臨職) 菊沢恵子 (臨職)
調査係	高村博文 (主任) 三石宗一 小山岳夫	高村博文 (主任) 三石宗一 小山岳夫	高村博文 (主任) 三石宗一 小山岳夫	高村博文 (主任) 三石宗一 小山岳夫 木内晶義 須藤隆司 (8月就任) 小林寛寿 (8月就任) 翠川泰弘 (9月就任) 竹原 亨 (9月就任) 助川朋広 (9月就任) 藤原浩江 (嘱託)	高村博文 (主査) 三石宗一 小山岳夫 小林寛寿 翠川泰弘 助川朋広 神部妙子 (臨職)

3 会計、経理の状況

(1) 昭和60年度 (昭和60年5月1日～昭和61年3月31日まで)

事業収入	52,642,000円
その他の収入	251,320円
合計	52,893,320円

(2) 昭和61年度 (昭和61年4月1日～昭和62年3月31日まで)

事業収入	45,452,000円
その他の収入	19,029円
合計	45,471,029円

(3) 昭和62年度 (昭和62年4月1日～昭和63年3月31日まで)

事業収入	40,292,000円
その他の収入	478,265円
合計	40,770,265円

(4) 昭和63年度 (昭和63年4月1日～平成元年3月31日まで)

事業収入	155,995,500円
その他の収入	1,247,420円
合計	157,247,420円

(5) 平成元年度 (平成元年4月1日～平成2年2月28日まで)

事業収入	176,260,000円
その他の収入	1,400,000円
合計	177,660,000円

II 事業概要

1 発掘調査

(1) 昭和60年度 (1985)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	西裏遺跡	根岸字西裏	道路	900	S60. 7. 10-8. 29	弥生中・後期、古墳時代中期を中心とした集落
2	竹田釜遺跡	根岸字竹田釜	集会場	986	S60. 8. 27-10. 4	弥生終末から古墳時代初頭の住居2棟
3	地池遺跡 西御堂遺跡	安原字地池	道路	1680	S60. 11. 15-12. 24	7-9世紀の住居
4	芝間遺跡	岩村田字東芝間	道路	1217	S60. 10. 14-11. 15	4世紀代の住居
5	宿上屋敷遺跡	安原字宿	道路	790	S61. 2. 25-3. 31	15世紀の中世遺構
6	下川原・ 光明寺遺跡	安原字光明寺	道路	3400	S61. 2. 24-3. 27	弥生中期後半・後期の拠点集落
7	北西の久保遺跡	岩村田	短大建設	12000	S60. 5. 16-12. 13	
計				20973		

(2) 昭和61年度 (1986)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	新町遺跡II	岩村田字新町	道路	614	S61. 5. 26-6. 9	近世陶器出土
2	屋敷前遺跡	香坂字屋敷前	道路	4800	S61. 10. 17-10. 31	土坑
3	西片ヶ上遺跡	香坂字小屋場	道路	2000	S61. 11. 4-11. 18	縄文後期の敷石住居
4	曲尾遺跡III	香坂字下中原	道路	3300	S61. 8. 26-9. 19	山間部の平安住居
5	曲尾遺跡I	香坂字下中原	道路	1500	S61. 9. 25-10. 6	縄文中期の土坑
6	高師町遺跡	新子田1368-1	道路	668	S61. 8. 27-9. 8	佐久地方の墨書土器集成
7	西大久保遺跡	上平尾・下平尾	道路	7500	S61. 10. 2-12. 2	土坑1基
8	菅田遺跡III	岩村田字今宿	道路	195	S62. 3. 12-3. 20	検出遺構なし
9	西條ふた遺跡	香坂字西條ふた	道路	1400	S62. 2. 19-3. 20	山間部の平安住居
10	池の藪古墳群	根岸	市志	2基	S61. 8. 2-11. 4	長野県古墳時代最古の墳墓?
計				21977		

(3) 昭和62年度 (1987)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	梨の木遺跡	中込	宅地	2720	S62. 8. 19-8. 29	中・近世の土坑群
2	新町遺跡III	岩村田字新町	道路	720	S62. 9. 1-9. 4	検出遺構なし
3	宮の上遺跡	横和	歩道設置	150	S62. 10. 15-10. 24	平安時代の住居
4	中曾根遺跡	岩村田字中曾根	敷地造成	480	S62. 9. 1-9. 8	平安時代の住居
5	長峯古墳群	内山字長峯	宅地	5基	S62. 3. 23-7. 31	7世紀代の横穴石室古墳
6	扇沢遺跡	野沢	学校	400	S62. 9. 4-9. 29	奈良・平安時代の住居
7	萬石遺跡	岩村田字萬石	学校	350	S62. 11. 9-11. 25	弥生工期の竈形墓
8	腰巻遺跡・ 西大久保遺跡II	上平尾字腰巻	道路	5100	S62. 8. 3-9. 28	弥生末と4世紀後半の住居
9	曲尾遺跡II	香坂字曲尾	道路	2000	S62. 10. 16-11. 9	土坑
10	荒田・ 上金井遺跡	小田井字荒田	道路	1863	S62. 9. 28-10. 1	中世堀
11	東赤塚遺跡II	岩村田字東赤塚	道路	3585	S62. 11. 27-12. 15	土坑
12	鶴アネ遺跡	香坂字鶴アネ	道路	1200	S63. 3. 3-3. 12	縄文時代中期後半の住居
計				18568		

(4) 昭和63年度 (1988)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	扇沢遺跡II	野沢	学校	745	S63. 6. 27-6. 29 S63. 8. 4-8. 10	土坑
2	琵琶坂遺跡VI	岩村田	学校	110	S63. 9. 12-9. 13	検出遺構なし
3	梨の木遺跡II	中込	宅地	2720	S63. 12. 9-12. 26	中世
4	宮の上遺跡II	横和字宮の上	歩道設置	350	S63. 12. 5-12. 13	平安時代の住居
5	森下遺跡	長土呂字森下能	道路	2000	S63. 6. 6-6. 18 S63. 10. 4-11. 11	弥生後期・古墳後期・平安時代の住居
6	金井城跡	小田井	工場団地	67000	S63. 3. 28-11. 28	中世の城郭全面調査
7	南上・下中原遺跡	長土呂・小田井	道路	7000	S63. 5. 11-9. 9	古代末期の様相を示す住居
8	上野端遺跡	長土呂	道路	5000	S63. 5. 11-10. 10	古墳時代後期～平安の拠点集落
9	東大門遺跡	岩村田	道路	800	H1. 3. 6-3. 23	弥生溝
計				85725		

(5) 平成元年度 (1989)

No.	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	聖原遺跡II	長土呂	流通団地	1870	H 1. 3. 27-4. 18	古墳時代後期～平安の拠点集落
2	聖原遺跡I	長土呂	流通団地	33000	H 1. 4. 10-11. 28	古墳時代後期～平安の拠点集落
3	菅田遺跡IV	岩村田	庁舎改築	200	H 1. 4. 19	検出遺構なし
4	金井城跡II	小田井	工場団地	8392	H 1. 5. 2-6. 23	中世の城郭全面調査
5	中金井遺跡II	小田井	道路	900	H 1. 7. 17-7. 19	金井城跡の続き
6	西曾根遺跡	岩村田字西曾根	住宅	7000	H 1. 6. 26-8. 5	奈良の住居
計				51362		

2 整理調査

(1) 昭和60年度 (1985)

No.	遺跡名	略号	調査団長	調査担当者
1	西裏遺跡群西裏遺跡	TNU	藤原平治	高村博文
2	西裏遺跡群竹田峯遺跡	NTM	藤原平治	高村博文
3	簡畑遺跡群池畑遺跡	YIT	黒岩忠男	高村博文
4	悠久保遺跡群西御堂遺跡	YMM	黒岩忠男	高村博文

(2) 昭和61年度 (1986)

No.	遺跡名	略号	調査団長	調査担当者
1	栗毛坂遺跡群芝間遺跡	ISM	黒岩忠男	高村博文
2	宿上原敷遺跡	YKY	黒岩忠男	高村博文
3	下川原・光明寺遺跡	YSK	黒岩忠男	高村博文
4	北西の久保遺跡	IKK	白倉穰男	高村博文
5	岩村田遺跡群新町遺跡II	IIM	黒岩忠男	小山岳夫
6	屈敷前遺跡	KYM	黒岩忠男	高村博文
7	西方ヶ上遺跡	KNU	黒岩忠男	高村博文
8	曲尾遺跡III	KMOIII	黒岩忠男	高村博文
9	曲尾遺跡I	KMOI	黒岩忠男	高村博文
10	高師町遺跡群高師町遺跡	ATM	黒岩忠男	小山岳夫
11	西大久保遺跡群西大久保遺跡	SNO	黒岩忠男	三石宗一
12	菅田遺跡III	IIS	黒岩忠男	高村博文
13	西弥ふた遺跡	KNN	黒岩忠男	高村博文
14	瀧の峯古墳群	NM	大井隆男	林幸彦
15	淡瀬遺跡	KAB	黒岩忠男	高村博文

(3) 昭和62年度 (1987)

No.	遺跡名	略号	調査団長	調査担当者
1	中原遺跡群梨の木遺跡	NNN	黒岩忠男	小山岳夫
2	岩村田遺跡群新町遺跡III	IIMIII	黒岩忠男	小山岳夫
3	宮の上遺跡群宮の上遺跡	YMM	黒岩忠男	小山岳夫
4	栗毛坂遺跡群中曾根遺跡	INS	黒岩忠男	高山博文
5	長峯古墳群	UNM	黒岩忠男	三石宗一
6	新沢遺跡	MAZ	黒岩忠男	高山博文
7	門正坊遺跡群真石遺跡	IET	黒岩忠男	小山岳夫
8	腰巻遺跡・西大久保遺跡II	SKM	黒岩忠男	小山岳夫
9	南風遺跡II	KMOII	黒岩忠男	高山博文
10	中金井遺跡群寛田・上金井遺跡	NAK	黒岩忠男	三石宗一
11	栗毛坂遺跡群東赤塚遺跡II	IHZ	黒岩忠男	高山博文
12	森塚遺跡	TEZ	黒岩忠男	高山博文
13	鶴ノ木遺跡	KUZ	黒岩忠男	羽田卓也

(4) 昭和63年度 (1988)

No	遺跡名	略号	調査団長	調査担当者
1	新沢遺跡II	NAZII	黒岩忠男	高村博文
2	枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡VI	IBZIV	藤沢平治	高村博文
3	中原遺跡群梨の木遺跡II	NNNII	黒岩忠男	翠川泰弘
4	宮の上遺跡群宮の上遺跡II	YMMII	黒岩忠男	小林真寿
5	森下遺跡	INM	黒岩忠男	三石宗一
6	金井城跡	ONK	黒岩忠男	高村博文
7	芝宮遺跡群南上中原・南上中原遺跡	NSM	黒岩忠男	三石宗一
8	長土呂遺跡群上聖蹟遺跡	NNK	黒岩忠男	高村博文

(5) 平成元年度 (1989)

No	遺跡名	略号	調査団長	調査担当者
1	一本柳遺跡群東大門遺跡	I IH	白倉盛男	翠川泰弘
2	長土呂遺跡群聖原遺跡II	NNHII	黒岩忠男	小林真寿
3	長土呂遺跡群聖原遺跡I	NNHI	黒岩忠男	高村博文
4	菅田遺跡IV	I ISIV	黒岩忠男	翠川泰弘
5	中金井遺跡群中金井遺跡II	ONKII	黒岩忠男	翠川泰弘

3 試掘調査

(1) 昭和61年度 (1986)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	淡瀬遺跡	菅坂字材木	道 路	1000	S 61. 10. 17 - 10. 21	検出遺構無し

(2) 昭和62年度 (1987)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	藤塚遺跡	塚原字藤塚	道 路	2902	S 62. 9. 11 - 9. 14	検出遺構無し
2	金井城跡	小田井	工場閉地	3000	S 62. 12. 2 - 12. 20	遺構あり、昭和63年度調査

(3) 昭和63年度 (1988)

No	遺跡名	所在地	原因	面積㎡	期間	内容
1	内西浦遺跡I	岩村田字内西浦	財産処分	170	H 1. 3. 17	遺構あり、平成元年度調査
2	聖原遺跡II	長土呂	流通閉地	450	H 1. 3. 22 - 3. 23	遺構あり、平成元年度調査



腰巻遺跡・西大久保遺跡Ⅱ現地説明会

4 その他

(1) 保護・保存事業

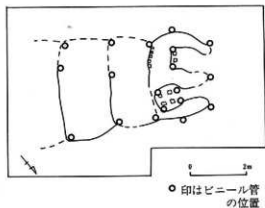
①昭和60年度川越石1号竈址
埋め戻し保存事業

②昭和60年度北西の久保3号
古墳埋め戻し保存事業

(2) 普及活動

①昭和60年度北西の久保遺跡
の現場において、教育委員
会とタイアップして少年考
古学教室を開催する。

②昭和62年度腰巻・西大久



川越石1号竈址埋土保存模式図

保遺跡で現地説明会を行う。

③昭和63年度金井城跡で現地説明会を行う

④平成元年度聖原遺跡Ⅰで現地説明会を行う

(3) 鑑定・指導・助言関係

昭和60年度

①北西の久保遺跡、竹田峯遺跡人骨鑑定

聖マリアンナ医科大学教授 森本岩太郎

②池畑・西御堂遺跡現場指導

筑波大学教授 岩崎卓也

長野県史刊行会 桐原健

③西裏遺跡、池畑・西御堂遺跡獣骨鑑定

前橋第二高校教諭 宮崎重雄



北西の久保3号古墳



北西の久保3号古墳埋土保存模式図

昭和61年度

①北西の久保遺跡関係

○出土遺物指導・助言

長野県史刊行会 笹沢浩

早稲田大学所沢文化財調査室 橋本博文

長野県埋蔵文化財センター 原明芳・市川隆之

奈良県橿原考古学研究所 木下亘

○胎土分析 奈良教育大学教授 三辻利一

○獣骨鑑定 前橋第二高校教諭 宮崎重雄

②下川原・光明寺遺跡出土遺物指導・助言

長野県埋蔵文化財センター 原明芳・市川隆之

③芝間遺跡出土炭化米鑑定 信州大学農学部教授 氏原暉男

④瀧の峯古墳群関係

○現地指導 更埴市教育委員会 矢島宏雄・佐藤信之

○人骨鑑定 聖マリアンナ医科大学教授 森本岩太郎

⑤西片ヶ上遺跡、曲尾遺跡Ⅰ・Ⅲ出土遺物指導

長野県埋蔵文化財センター 平林彰・三上徹也・百瀬新治・綿田弘実

昭和62年度

①長峯古墳群関係

- | | | |
|-------------------------|--------------|-----------|
| ○人骨鑑定 | 聖マリアンア医科大学教授 | 森本岩太郎 |
| ○獣骨鑑定 | 前橋第二高校教諭 | 宮崎重雄 |
| ○耳環のX線マイクロアナライザーによる定性分析 | | |
| | 長野県工業試験場 | 狩野善典 |
| ②曲尾遺跡Ⅱ出土遺物鑑定 | 長野県埋蔵文化財センター | 百瀬忠幸・近藤尚義 |
| ③腰巻遺跡炭化材同定 | バリノサーヴェイ株式会社 | |

昭和63年度

- | | | |
|-----------|--------------|------|
| ①金井遺跡現地指導 | 奈良女子大学助教授 | 村田修三 |
| | 長野県埋蔵文化財センター | 河西克造 |

平成元年度

- | | | |
|--------|-----------------|-----|
| ①聖原遺跡Ⅰ | | |
| ○現地指導 | 長野県考古学会会長 | 森島稔 |
| ○地質関係 | 通商産業省工業技術院地質調査所 | 寒川旭 |

(4) 職員研修

- S60. 5. 11 (木内捷・高村博文)
長野県文化課へ埋蔵文化財事務打ち合せ〈長野市〉
- S60. 7. 18 (木内捷・畠山俊彦・高村博文)
群馬県埋蔵文化財調査事業団視察〈北橋村〉
- S60. 9. 22～9. 23 (木内捷・畠山俊彦・高村博文・三石宗一・小山岳夫)
国立歴史民俗博物館視察〈佐倉市〉
- S60. 1. 23～1. 24 (木内捷・畠山俊彦・高村博文・三石宗一・小山岳夫・高橋純子)
黒井峯遺跡視察〈子持村〉
- S61. 4. 26～4. 27 (小山岳夫)
日本考古学協会〈駒沢大学〉
- S61. 6. 30 (西沢正巳・小山岳夫)
古陶磁器展及び施設等の視察〈九子町郷土博物館〉
- S61. 7. 2 (三石宗一)
昭和61年度市町村文化財担当課及び事務担当者会議〈長野市〉
- S62. 5. 2～5. 3 (高村博文・三石宗一・小山岳夫)
日本考古学協会〈千葉大学〉
- S63. 4. 30～5. 1 (高村博文・三石宗一・小山岳夫・木内晶義・篠原浩江)

日本考古学協会〈埼玉県産業センター〉

H1. 2. 7～2. 8 (三石宗一・小山岳夫)

第3回『大学と科学』公開シンポジウム「新しい研究法は考古学に何をもたらしたか」
〈東京朝日ホール〉

H1. 3. 17～3. 18 (翠川泰弘)

群馬県赤城村教育委員会保管の資料実見〈赤城村〉

H1. 3. 22～3. 23 (須藤隆司)

諏訪市教育委員会保管の資料実見〈諏訪市〉

H1. 5. 10～5. 11 (高村博文)

パソコン「ロータス1-2-3入門コース」〈長野市NTT信越研修センター〉

H1. 5. 27～5. 28 (三石宗一・小山岳夫・小林真寿・翠川泰弘・助川朋広)

日本考古学協会〈マルテノン多摩〉

H1. 12. 7～12. 27 (小林真寿)

奈良国立文化財研究所「埋蔵文化財情報課程」

H2. 1. 29～2. 3 (小山岳夫)

奈良国立文化財研究所「城館遺跡調査課程」

H2. 2. 3～2. 4 (三石宗一・助川朋広・飯沢恵子)

パソコン「ロータス1-2-3入門コース」〈長野市NTT信越研修センター〉

H2. 3. 17～3. 18 (小山岳夫・翠川泰弘・菊池直美)

パソコン「ロータス1-2-3入門コース」〈長野市NTT信越研修センター〉

5 佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書刊行目録

第1集 『西裏、竹田峯』

第2集 『池畑、西御堂』

第3集 『芝間』

第4集 『新町II』

第5集 『宿上屋敷、下川原・光明寺』

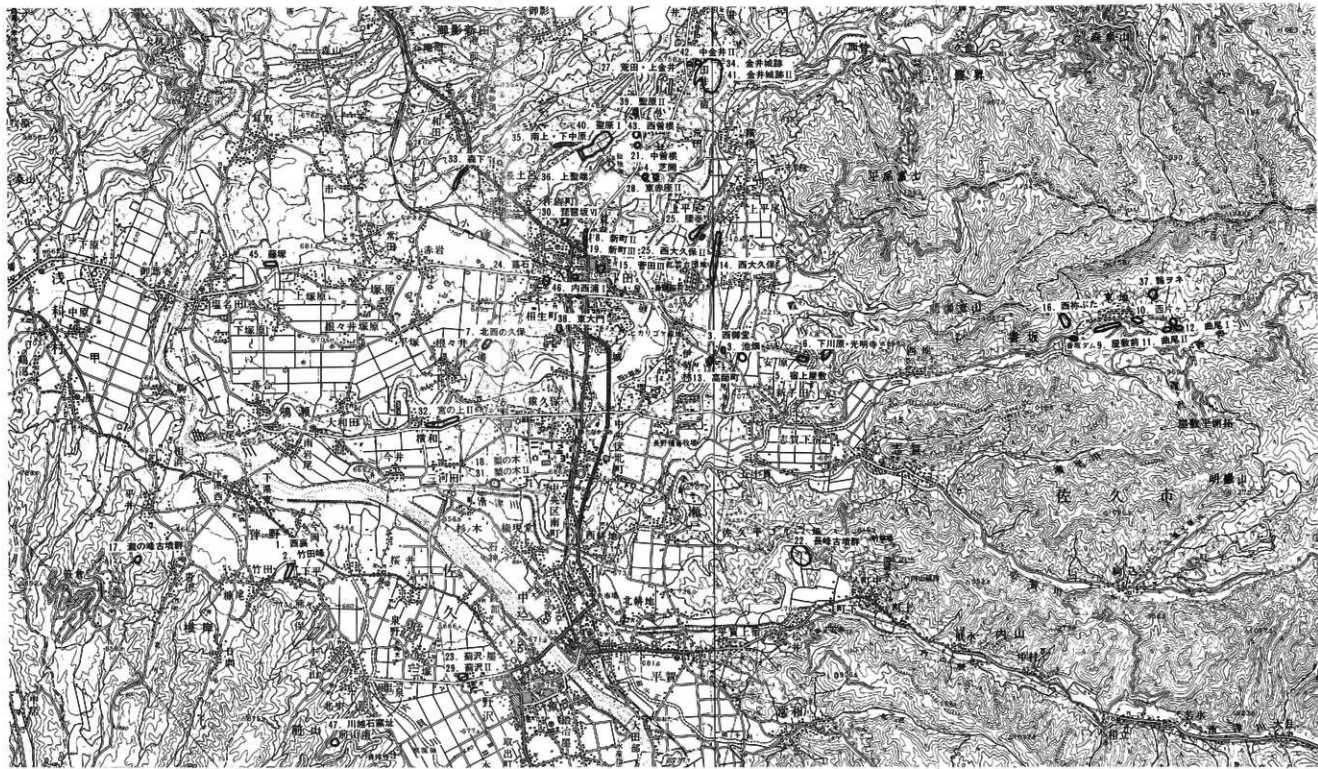
第6集 『淡淵、屋敷前、曲尾III、曲尾I』

第7集 『高師町、西大久保』

第8集 『北西の久保』

第9集 『梨の木』

- 第10集 『菅田Ⅲ、新町Ⅲ、宮の上、中曾根、藤塚』
第11集 『長峯古墳群』
第12集 『西袴ぶた』
第13集 『薮沢、鳶石』
第14集 『瀧の峯古墳群』
第15集 『腰巻・西大久保Ⅱ、曲尾Ⅱ』
第16集 『荒田・上金井、東赤座Ⅱ』
第17集 『薮沢Ⅱ、琵琶坂Ⅵ、梨の木Ⅱ、宮の上Ⅱ』
第18集 『森下』
第19集 『金井城跡概報』
第20集 『南上中原・下中原、上聖端概報』
第21集 『鶺鴒』
第22集 『東大門、菅田Ⅳ、中金井Ⅱ』
第23集 『聖原Ⅰ概報』



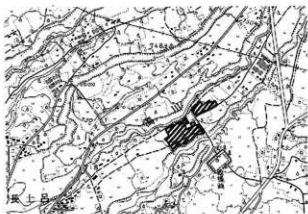
昭和60～平成元年度佐久県文化財調査センター関係遺跡分布図

(1:50,000国土地理院作成)

III 平成元年度各遺跡の調査概要

聖原遺跡 I

所在地 佐久市大字長土呂
字上聖端・上聖原 他
調査原因者 佐久市土地開発公社
開発事業名 佐久流通業務団地
造成事業
調査機関 平成元年4月10日
～11月28日
面積 33,000㎡
団長 黒岩 忠男
担当者 高村 博文



聖原遺跡 I 位置図 (1:25,000)

経過と立地

聖原遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓末端部地域に所在する。この地域は御代田方面から南西にのびる田切り地形が非常に発達しており、この田切りに挟まれた台地上には東から栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群・長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群・西近津遺跡群などが展開しており、佐久市でも有数の遺跡群が密集している地域である。聖原遺跡は長土呂遺跡群のほぼ中央部に位置しており、標高734～742mを測る。

本遺跡群内での発掘調査は、昭和63年度に上聖端遺跡・上大林遺跡・下聖端遺跡、平成元年度に聖原遺跡IIの調査が佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センターによって行われている。各遺跡から検出された住居址は上聖端遺跡47棟・上大林遺跡1棟・下聖端遺跡12棟・聖原遺跡II 8棟の計68棟であり、いずれも古墳時代後期から平安時代に位置付けられている。

聖原遺跡の調査対象面積は約72300㎡におよび、そのうち平成元年度調査地区である聖原遺跡Iは面積約33000㎡という広大なものである。そのため本調査に先立ち、昭和63年、佐久市教育委員会により本遺跡内約60000㎡を対象とした大規模な試掘調査が実施された。本遺跡で予想された主な遺構は、当遺跡の南西端に隣接する上聖端遺跡の調査結果および試掘調査結果から、7世紀から9世紀代の集落展開が予想されたため、これらの集落の構造・性格・変遷を究明することを主眼として調査を行った。

調査の概要

今回の調査で検出された主な遺構は、古墳時代後期から平安時代と考えられる住居址396棟、掘立柱建物址242棟、土坑188基（おとし穴22基）、粘土坑15基と現時点では捉えているが、今後の検討により若干の増減があると思われる。

現在は、遺物の水洗い作業と遺構図面の整理を行っている段階であり、遺物についての検討はまったく行われていない状況であるため、各遺構の詳細な時期区分は明確ではないが、現段階での成果を簡単にまとめてみたい。

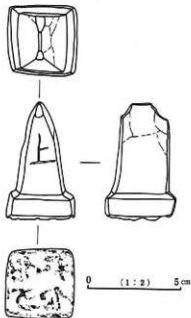
古墳時代の住居址 相対的に大規模な住居が多く、カマドに対する南壁中央に出入口施設と考えられる、この時期に特徴的に見られる方形の張り出しを持つものが多い。カマドは北壁中央に構築される場合がほとんどで、袖部分の地山を削り残して、その先端部に石を埋設した後、その上に石を載せ天井石とし、さらに粘土で被覆したものが一般的である。柱穴は、4本が均等に配置され、壁溝・カマド脇の土坑を有する例が多い。

奈良時代の住居址 前代に見られた南壁中央の張り出しは認められない。カマドの位置には変化は見られないものの、袖全体を地山から削り出す手法は見られなくなり、袖基部のみを削り残すものが認められるが、石・土器片等を芯材とし、これを粘土で被覆するものが一般的である。

平安時代の住居址 当遺跡において最も多くの住居址が検出された時代であるが、今後の整理により詳細な時期区分がなされていけば、さらに細分されるものと思われる。カマドは北壁中央に構築される場合が一般的であるが、東壁中央および南東隅に構築されるものも存在する。特徴的な構造を持つものとして、煙道部分に土師器甕を3～4個連ねて煙管としたものや、カマド本体が壁外に大きく張り出す構造のもの、構築材が粘土主体ではなく石を主体としたもの等が認められる。柱穴についても様々なパターンが認められる。

掘立柱建物址は、今回の調査区ほぼ全域から検出された。形態は総柱式と側柱式とに分類されるが、側柱式のものが多い。総柱式のものは一辺4m前後の方形プランを呈し、2間×2間で中央に1本の柱が配されるものが主体的である。側柱式のもの、長辺4～5m、短辺3～4mで2間×3間のものを基本的な形態とするが、規模は様々である。

遺物については、先述したようにまったく検討が行わ



石製私印実測図



石製私印

れていない状態である。その中で特筆すべき遺物として石製の私印がある。印は縦3.3~3.5cm、横3.4~3.5cm、高さ6.2cmである。奈良国立文化財研究所に鑑定していただいとところ、律令体制時の石製の印は全国的にも珍しく、「伯万私印」つまり“伯万呂”という有力者の私印であろうとのことである。

土器類は極く少量の破片を除き、古墳時代後期から平安時代に限定され、約300箱を数える多量の土器が出土した。このうち、特殊なものとして須恵器高盤・円面硯、「小郡」をはじめとする多量の墨書土器、さらに緑釉陶器皿・小瓶等がある。また、金属製品では鉄製の鉸具・巡方、銅製の巡方等、さらに皇朝十二銭をはじめとする貨幣がある。その他、鉄製品には鋸・鋤・鎌・鉄鎌・紡錘車などの農具・武具が出土している。

以上、調査途中の現段階での概要を述べたが、各遺構の詳細な時期区分、類型化、カマドなどの付属施設の変遷、さらに遺構の分布、集落内における位置関係等については今後の検討課題としたい。また、今回のような大規模な発掘調査を実施することが必ずしも真の埋蔵文化財の保護になるとは考えられないが、少なくとも調査・研究の進展・成果によって困難と思われる一般集落の保護にも活路を見いだすべきであると考えられ、一日も早く開発と保護の調和のとれる接点を見いだす努力をしていく必要があろう。

(三石・助川)



紫原遺跡1遺構全体図

聖原遺跡Ⅱ

所在地 長土呂隠し1-4
調査原因者 佐久市開発公社
佐久市土地開発公社
開発事業名 佐久流通団地整備事業
調査期間 平成元年3月27～4月18日
面積 1,870㎡
団長 黒岩 忠男
担当者 小林 真寿



聖原遺跡Ⅱ位置図 (1:25,000)

経過と立地

当遺跡は、長土呂に所在し標高735～746mを測る。両側を『田切り』地形により区画された、北東から南西にのびる細長い台地上に展開する。調査地点は当遺跡の佐久市分の北東端部にあたり、御代田町に接する。

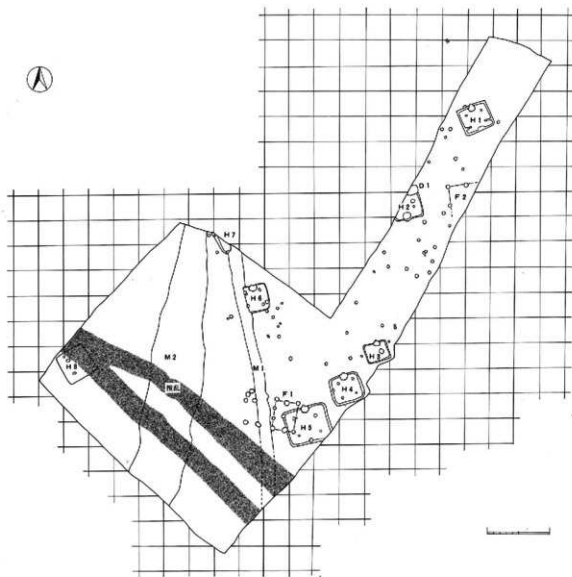
平成元年度、当遺跡内において佐久市開発公社・土地開発公社によって、佐久流通団地整備事業が計画され、試掘調査を実施した結果、全面調査の必要が生じたため佐久市教育委員会が佐久市開発公社より委託を受け、佐久市教育委員会から委託を受けた当センターが調査を実施した。



聖原遺跡Ⅱ全景

調査の概要

竪穴住居址—8棟・掘立柱建物址—2棟・溝址—2条・土坑—1基・Pit—54基が検出された。竪穴住居址は全て奈良時代前半、掘立柱建物址の内F1はH5を切る事、長軸方位が竪穴住居址群とは異なる事等から竪穴住居址群よりは後出であるか時期不明。F2は長軸方位が竪穴住居址群と同一である事から奈良時代前半である可能性が高い。溝址の内M1は人工、M2は自然流路である。M1の場合H6・H7を切る事から竪穴住居址群より新しい時期の所産であろうが時期不明。M2については時期比定の根拠が皆無である。土坑D1はH2を切る事、出土土器等から平安時代（9世紀代）に比定される。（小林）



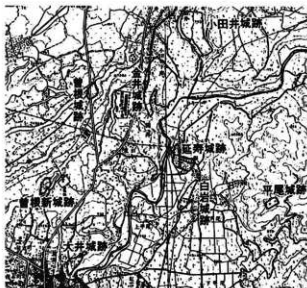
聖原遺跡II全体図

金井城跡

所在地 長野県佐久市小田井
 調査原因者 長野県土地開発公社
 開発事業名 小田井工場団地

造成事業
 調査 期間 昭和63年3月28日～
 11月28日
 平成元年5月2日～
 6月23日

面積 80,000㎡
 団長 黒岩 忠男
 担当者 高村 博文



金井城跡と周辺城郭位置図(1:50,000)

経過と土地

金井城跡は佐久市北端部、御代田町境の小田井地区に位置する。長野県五大盆地の一つに数えられる広大な佐久盆地の中であって、比較的高位な標高750～780mの浅間南麓末端部にあたる火山灰地帯である。気候は冷涼で、現在でも稲作は不適、高原野菜が農業生産物の主体をなしている。

城跡は、佐久市北部を南北に貫流する湯川を東側直下に控えた舌状に張り出す切り立った台地上に占地する。河床との比高差は30m内外である。城郭西側も深い谷地形によって刻まれており、城郭三方は自然の地形によっておのずから要害が形勢されることになる。

城域は想定で20万㎡を超える。佐久平北部、浅間山麓末端部には、これと同様な自然の要害を利用した巨大な「台地型」の平城（ひらじろ）が、平原城・小田井城・曾根城・大井城を始め戦国時代を中心として幾つも築造され、佐久平特有の歴史景観を構築している。

文献資料に目を転じると、金井城に関する記載が非常に少ないのに気付く。同時代の正確な記録・文書はなく、後の時代にまとめられた編纂物（四隣譚載）や戦記類（信陽雑誌）等にその存在がようやく伺える程度である。これらの文書からは、金井城の巨大な景観を想像することはできない。また、伝承では北東方向500mに近接する小田井城の支城ということになっているが、その出展についても甚だ疑問点が多い。かような文献資料の希薄さなども手伝って、金井城は地域の人々からも忘れられかけていた。

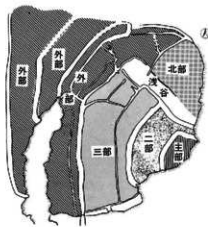
昭和60年、金井城跡内において、佐久市による小田井工場団地造成事業が企画され、その後、長野県が造成を行うこととなった。これに伴って行われた現地踏査で作成された城跡の縄張り図によって、金井城が佐久平屈指の巨大な規模であることが確認された。その後、昭和62年には城郭に西接する荒田・上金井遺跡の発掘調査、城跡内の試掘調査が行われ、金井城跡の重要性が益々周知されるに至った。

これらの事実を踏まえ、長野県土地開発公社、長野県教育委員会文化課、佐久市教育委員会の三者で保護協議がもたれたが、結局、破壊止むなきにいたり、市教委が県土地公社から記録保存を前提とした発掘調査委託を受け入れることになった。その後、市教委は佐久埋蔵文化財調査センターに再委託契約を提示し、これを受けた当センターが、昭和63年・平成元年の2カ年度に互り発掘調査を行った。その面積は実に80,000㎡に及ぶ。

調査の概要

金井城は堀の掘削と土塁の版築等の土木工事（普請）に比重をおいた典型的中世城郭である。従って、勇壮な石垣、天守閣をもつ近世城郭のイメージとは程遠いものである。

土塁は殆ど現存していないが堀跡は現在も埋まり切らずにくぼんでいたため、踏査の段階から南東側の崖縁を基点として扇型に展開する全体形状が把握された。南東側崖縁は城郭の構えから見れば最奥部に当たり、「主郭」とした。主郭から広がる大小9条の堀に仕切られた各郭は、主郭寄りの東側から順に「二・三郭」とし、それ以西の郭は「外郭」とした。また、主郭から三郭の北方には、幅20m前後の埋没した浅い谷があり、これを挟んで対面する北側の四角い郭を「北郭」とした（以上略図参照）。昭和63・平成元年の調査では、二郭の一部、三郭・北郭の大部分、



金井城略図

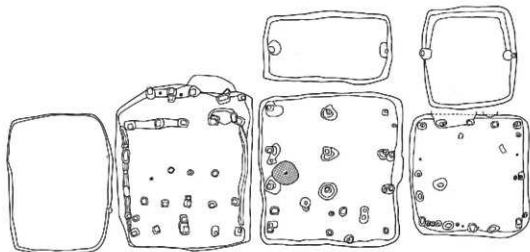
外郭の1/3以上の内容が明らかにされ、主郭は保護対象地となった。検出された遺構は、竪穴建物址603棟、掘立柱建物址約50棟（検討の余地あり）、堀・溝29条、土坑720基、土塁に関連する遺構6基、無数の柱穴などである。竪穴・掘立柱の建物址、土坑・柱穴等は、二・三・北郭に集中分布するが、外郭では希薄となる。この傾向は外郭でも外側に広がるに従って更に進み、外郭の最前線（最も西側）では、建物らしい遺構が皆無となる。二・三・北郭に於けるこれらの遺構の在り方は、混在した状況を示し、幾つかのまとまりを形勢するようである。同じ種類の遺構のみが特に固まって分布する傾向は見られない。また、殆どの遺構・建物が小型であり、特に階

級・階層差を示すような大規模建物も見られない。おそらく、城内において各遺構が機能別の役割をもっており、各遺構が有機的に結合することによって、一つの集合体の必要条件が満たされたのであろう。従って、今後の整理調査では、地域内に於ける各遺構の集合体の抽出、そしてそれらの集合体の相互関連の深求が重要である。

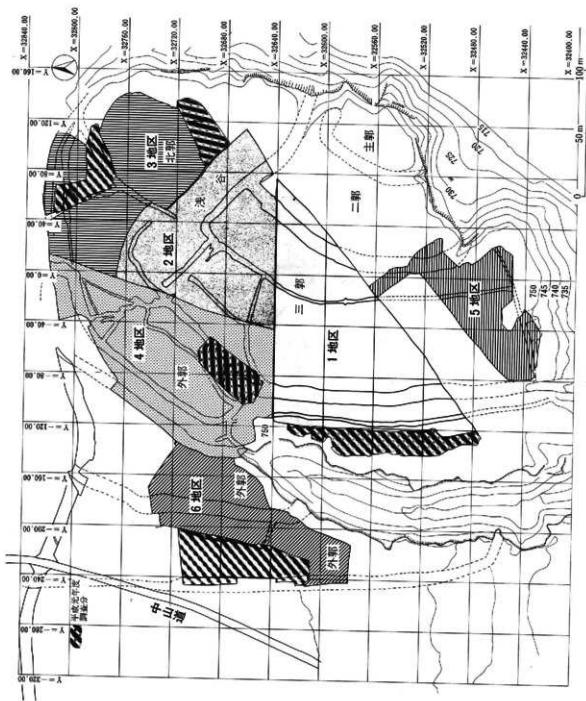
遺構を種別に見ると、竪穴建物址は方形・長方形を基調として、一辺2～3m規模が多い。一辺1m内外の小規模なもの、5～6mの大規模なものもある。構造的には柱穴を壁直下周囲におくもの、壁溝を有するもの、何もたないものの三タイプがあり、少数ではあるが、炉をもつもの、出入口張り出し施設を有するものも見られる。また、北郭の竪穴建物址は壁立ち上がりの周囲に更に厚い土壁が版築されており、他の郭とは異なった構造の特徴を有する。堀立柱建物址は一間×二間、梁行4～5m、桁行6～8mの規模で、柱穴は径10～15cmと狭く、貧弱で四角張ったものが多い。長軸の方位は近接する竪穴建物址とはほぼ並行する。土坑・柱穴については建物以外の役割も想定しなければならない。

遺物は土器類（内耳土器、かわらけ、国産陶器、輸入磁器等）、石器類（石臼、茶臼、砥石等）、鉄器類（小札、刀子等）、土製品（石臼模造品等）、貨幣（北宋銭主）などがあるが、石器類を除き、その量は非常に少ない。

金井城跡は、気候の冷涼な水の便が悪い、原始・古代集落の営みが行われなかった地域に戦国時代に至って惣然と築城された。その背景には1542年以降、佐久地方へ侵略を開始した甲斐武田氏の影響を感じるのであるが、整理途中では推測の域を出ない。城郭の築城・廃城年代の推定はもとより、構造の究明、佐久地域内・日本列島内における位置付けなど、余りにも知られていなかった城郭の内部であるが故に、今後の整理調査に課せられた課題は余りにも大きい。（小山）



いろいろな竪穴建物址の平面図



金井城跡発掘区設定図

西 曾 根 遺 跡

所在地 佐久市大字岩村田字西曾根62地
調査原因者 佐久市土地開発公社
佐久市経済部商工観光課
開発事業名 雇用促進住宅地造成
調査期間 平成元年6月26日～8月
5日
面積 7,000㎡
団 長 黒岩 忠男
担 当 者 翠川 泰弘



西曾根遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

栗毛坂遺跡群西曾根遺跡は、佐久市岩村田に所存し、田切地形に挟まれた標高744m内外を測る台地上に立地している。

過去遺跡群内においては、佐久市教育委員会、長野県埋蔵文化財センター・当センターにより柳田遺跡・芝間遺跡・前藤部遺跡・栗毛坂遺跡A～C地区・中曾根遺跡等の遺跡の発掘調査が実施され、奈良時代～平安時代の遺構・遺物が検出されている。今回、本遺跡内において、佐久市経済部商工観光課・佐久市土地開発公社による雇用促進住宅造成事業が計画されたため、佐久市教育委員会が試掘調査を実施した。その結果、遺構の存在が確認され、全面調査を実施する必要性が生じた。そこで佐久市教育委員会が佐久市土地開発公社より委託をうけ、佐久市教育委員会より委託をうけた佐久埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施する運びとなった。

調査の概要

検出された遺構は、竪穴住居址2棟・掘立柱建物址17棟・土坑5基・井戸址1基である。掘立柱建物址の棟数に比べ竪穴住居址の棟数が極端に少なく、調査区南西の低地は遺構空白地帯となる。H1・2は出土遺物・住居址構造より奈良時代前

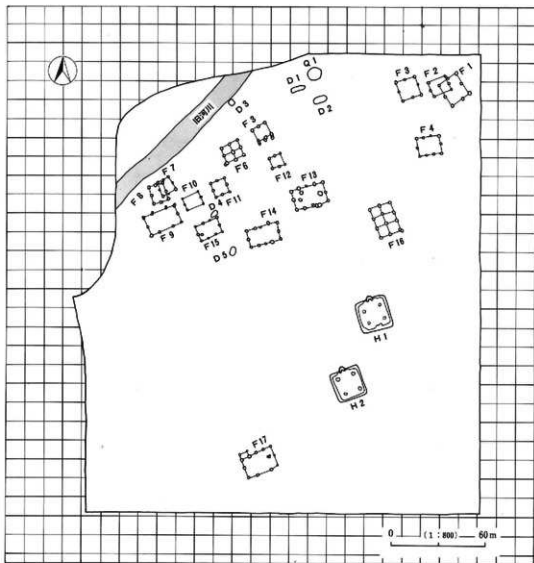


第2号住居址 (南方より眺む)

半の所産と考えられる。掘立柱建物址・井戸址 (Q 1) は出土遺物が僅少であるため、明確な遺構の年代を決定する根拠に欠けるが、覆土層の様相・遺構の分布状況・周辺から出土する遺物などから、2棟の住居址とさしたる時間差をもっていないことが推察される。D 1・2・4・5 は長径3m、短径1.5m内外を測る楕円形のプランをもち、縄文時代のおとし穴と類似するが、底面上のピットは確認されていない。

1筋の田切り地形を隔てた眼前の台地上には、古墳時代～平安時代にわたる400棟もの住居址が検出された聖原遺跡が存在する。このことから、遺構密度が希薄な本遺跡は、占地期間が短く居住空間としての適地ではなかったことが窺える。

(翠川)



西管根遺跡遺構全体図

菅田遺跡Ⅳ

所在地 佐久市大字岩村田字今宿42-1
調査原因者 浅麓水道企業団
開発事業名 庁舎改築事業
調査期間 平成元年4月19日
面積 200㎡
団長 黒岩 忠男
担当者 翠川 泰弘



菅田遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

菅田遺跡は、佐久市岩村田に所在し、佐久平に特有は「田切り地形」の台地上に細長く展開する岩村田遺跡群の南東部に位置しており、標高は約710mを測る。本遺跡内では過去3回の調査が実施されている。昭和59・60年度佐久市教育委員会によって実施された第1・2次調査では、本遺跡の東側に近接する大井城跡との関連性を窺わせる状況に凹んだ低地形が検出されるとともに、中世の所産と考えられる遺物の出土も見られた。また、昭和61年度当センターで行った第3次調査では、菅田遺跡がほぼ全域にわたって低湿地に立地する遺跡であることが確認されている。

平成元年度、浅麓水道企業団による庁舎改築事業が本遺跡内で計画されたため、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、記録保存する必要性が生じた。そこで、佐久市教育委員会が浅麓水道企業団より委託をうけ、佐久市教育委員会より委託をうけた佐久埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施する運びとなった。

調査の概要

調査区の現況地形が北から南へ緩く傾斜するため、南部と北部に幅約2mのトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。その結果、溝幅4m以上を計測する溝状遺構1条と弥生時代後期の土器細片1点、石臼1点が出土した。

本遺跡は、遺跡全体が低湿地であり、出土遺物が僅少であることから、近世以前は積極的な居住空間としては用いられなかったことが理解できる。

(翠川)。



遺跡近景 (西方より眺む)

佐久埋蔵文化財調査センター年報 1

平成 2 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 佐久埋蔵文化財調査センター

〒384-01 長野県佐久市大字原122番地

電話 (0267) 63-2394

印刷 信毎書籍印刷株式会社
